

神戸商工だより

The Kobe Chamber of Commerce and Industry
<http://www.kobe-cci.or.jp/>

5
2010



特集

知的資産経営報告書で
自社の強みを知る

NEWS 》 2010 神戸学検定
今年はコーベアーも挑戦！



(前列左から)佐伯里香社長、安野立夏さん
(後列左から)大久保現さん、西川理恵さん、藤本陽子さん

労働集約型から 高付加価値サービス提供への転換 株式会社ユーシステム

システム受託開発、ウェブ制作、人材派遣の3事業を手掛ける。知的資産経営報告書の作成に取り組むことによって、自社の強み、弱みを分析することで導き出した将来ビジョンは「労働集約型から高付加価値サービスを提供する技術集約型への転換」だ。

社員参加型の経営へ

大手コンピューターメーカーやシステム会社で情報化推進やSE教育などの経験を積んだ代表取締役の佐伯里香さんが仲間とともに2002年に創業した。

当初は、システム開発の受託会社としてスタート。その後、企業のウェブ制作や技術者派遣、ウェブコンテンツ制作へと業容を拡大した。

創業以来、経営革新に取り組んできた佐伯さんだったが、「トップけん引型組織では、いずれ立ち行かなくなる。社員参加型の経営体制に早く転換しなければと感じるようになりました」と言う。そんな時に知ったのが、知的資産経営報告書。社員を巻き込んで会社について考える好機と判断し、報告書の作成を決めた。

社員間の共通認識が深まる

知的資産経営報告書支援セミナーには、佐伯さん以外に、20～30代の社員4人が参加した。報告書作成のプロセスにおいては、佐伯さんにも社員にも、多くの「気づき」があったという。「知的資産を整理分類しながら、今さらながら自社がいろいろやっていることに気付いた」「管理者、経営者の立場で経営をとらえる勉強になった」「会社に対する理解が深まった」「他部署の業務をよく知ることができた」というのが、参加した社員たちの感想だ。

経営品質向上を目指して

知的資産の一つとして挙げたのが「フレキシブルな対応」。その一環で、「ITのセル方式」ともいべき人材育成スタイルをとっている。社員が専門外の業務を担当することで、すべての

業務フローを理解し、一人でも顧客に対応できるようにするもので、「対応の迅速化や会社組織の把握、多種多様な業態を理解す

る力を養うことにもつながっています」と言う。

報告書の作成と同時に、公益財団法人日本生産性本部の「実効力ある経営」認証評価制度にも取り組み、2010年1月に導入認証を受けた。そのプロセスでも、社員全員の参加が求められる。「『実効力ある経営』においても、まず自社を知ることが重要。その意味で、社員が会社の強み、方向性を理解していたことで取り組みがスムーズに進みました」と話す。

今後は「人を集める労働集約型のビジネスから、高付加価値サービスを提供する技術集約型への事業転換」を目指しており、組織を挙げて経営品質向上に地道に取り組んでいく考えだ。

【会社データ】

株式会社ユーシステム
設立：2002年4月
代表取締役：佐伯里香
従業員数：22人
所在地：神戸市中央区御幸通4-2-15
三宮米本ビル4F
電話：078-252-7300
<http://www.u-sys.co.jp/>

知的資産	重要成功要因
<ul style="list-style-type: none"> ・フレキシブルな対応 ・信頼の技術力 ・地域への発信とネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓 ・品質と生産性の向上 <p>→労働集約型から高付加価値サービスを提供する技術集約型への転換</p>